Liarsoftの嘘つきエンターティメントマガジン

USO 月刊うそ。

TOPIX

- 紫影のソナーニル、NEO-GEOポケットにも移植！
- さらにツインファミコンやドリキャスに移植も！？
- 蘇るゾンビ久秀！松永・ウォーZ!
- サチさん&恵さんにゴーストライター疑惑
- ソチ五輪、開会式にアナスタシア姫ロケット参加
- シャイニング・リーグ増員でＳＮＬ４８と改名へ
- ライアーＨＰ待望の復活！（ご迷惑をおかけしました）
- 消費税8%上昇でも400ニコルでがんばります。

TOPIXネタ投稿募集中～　ポイントもつくよ!!



Volume. 46

巻頭特集

「英雄」

英雄と書いてヒーロー！ライアーソフト新作もあります！

Quarterly
400ニコル（税込）

cover model=因幡うさぎ～ズ&キモいさん、朔屋直正　photo=Lem

INDEX

SEASONLY LIARMARU

COVERGIRL



今から一緒に♪／これから一緒に♪／殴りに行こうか～×２／と言うわけで編集長を殴ろう！／英雄特集です！／あのキャラこのキャラいなくね？／よし編集長を殴ろう！／英雄沢山いすぎて大変！／よし編集長を殴ろう！／なんでやねん！

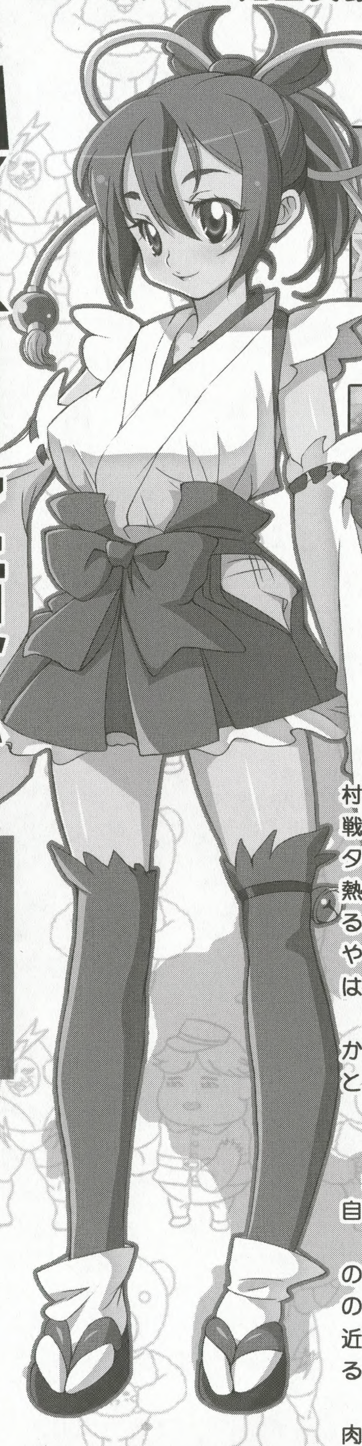

巻頭特集
HERO
英雄
企画◆原案/天野祐一
原画/みゅらっち


ご当地ヒロイン vs ゆるされざるキャラ！
Liar-soft 新作
ガチゆる
ヒーローバトル
姫巫女銀河
HIMEMIKO GINGA

巻頭特集「英雄」のTOPを飾るのはライアーソフト新作「ガチゆるヒーローバトル　姫巫女銀河」となります！

砂倉遥

HARUKA SUNAKURA







芦原市を代表する「姫巫女　銀河」の中の人。父親がマッドサイエンティストだったばっかりに、朝起きたら改造人間に生まれ変わっていたという不幸な少女。

平成の大合併で対立し平行線を辿った市町村が、その決着法として取り入れた非公式な戦いがあった。各自治体を代表するキャラクターたちによって行われる、肉体言語による熱い討論。すなわち「ガチゆるバトル」である。力あるものが全てを得るやり方はわかりやすく、非公式なものであったこの“論戦”は熱狂的に支持されてきた。

が、それも今は昔。すでに大合併は収束し、かつての熱い討論も伝説のものとなった。と思われていたのだが――

あの「ガチゆるバトル」が帰ってきた！

発端は北海道でも僻地に存在する地方自治体、芦原市。

ここの市長のやらかしによって、大きく穴の開いた市の財政を立て直すため、過去のものとなっていたガチゆるバトルを復活させ、近隣の市町村を侵略――もとい合併を試みるのだ！

ご当地ヒーローとゆる（されない）キャラ、肉体言語による話し合いでもって！

芦原市を代表するキャラクターは、ローカルヒーローの「姫巫女　銀河」。マッドサイエンティストの父親趣味で、100万馬力の改造人間に生まれ変わった悲劇の少女だ。

　スペック的には勝ったも同然の闘いだが、しかしひとつ大きな問題が存在している。それは金。市長が派手にやらかしたため、芦原市の財政は合併が終了するまで持ちそうにない……

　ただ戦って勝つだけではダメだ。幸い戦っているのは女の子。破れやすい衣装や、ハプニングの起こりやすい舞台を用意し、その痴態を有料配信することで資金を稼ぎ、芦原市を破綻から守るのだ！



芦原市長　　砂倉雄介



御堂寿々音

SUZUNE MIDOU



ヒロインのライバル、もう一人の改造人間「カムイッコたん」の中身。

　元々は良いところのお嬢さん。不治の病で死にかけていたが、遥の父親であるマッドサイエンティスト砂倉雄介の改造手術で助けられる。

魔都拳侠傳 マスクド上海

左文字俊作は改造人間である。彼を改造したのは、崑崙に住む西王母である。彼は人間時代にうっかり封印を解いてしまった悪仙人を再封印するため、あとついでに人間の自由のために、悪仙人たちと戦うのだ！

アイリーン（以下ア）「はいっ、というわけで真打ち登場ですね！　２０世紀のアジアを代表するヒーローと言えばこのお方！　１９３０年代、東洋のバビロンと言われた国際都市、“魔都”と呼ばれた上海で、謎の悪仙人たちと戦う仮面の拳侠にして、超クール、超ストロング、そして超ジェントルな超マスクヒーロー、マスクドシャンハイ様ですよ！　きゃー、ステキ！　ステキ過ぎる！　どんどんぱふー！」

ヘレーネ（以下ヘ）　「て、テンション高っ！　っていうか、自己紹介とかしなって。このページ読んでる人、あたいたちが誰か分かってないよ、きっと」

ア　「おっと、そうでしたそうでした。いやー、ほらマスクドシャンハイ様ってば、あたしの命の恩人にして運命の人だから、どうしても興奮しちゃってさー。うへへ、えーっと、あたしの名前はアイリーン・ワトソン。上海の共同租界で出てるクォリティペーパー『上海トリビューン』を中心に活躍する事件記者です。よろしくね！」

ヘ　「で、あたいがヘレーネ・コシュバ。そんでもう１人。アイリーンだけだと不安だし常識人枠ってことで連れてきたのが、上海の日本租界でお医者さんをやってる藤谷日和子」

日和子（以下日）「あらあら、私もですかー」

ア　「このふたりのことをもっと知りたい人は……まぁ適当にググってね」

ヘ　「おざなりすぎる！」

ア　「えー、しょうがないじゃん。文字数限られてるし、マスクドシャンハイ様の事を喋りたいしさ。まぁじゃあ簡単に紹介だけね。えーっと、とりあえずイラストのちっちゃいのがヘレーネで、メガネが日和子ってことだけ覚えてくれればいいよ。あ、一番手前の美少女があたしなんで！」

ヘ　「うわ、臆面もなく美少女って言い切った！」

日　「まぁ欧米の方は自己主張が強いですからねぇ」

ア　「そうかなぁ、普通だと思うけどなぁ」

ヘ　「いいからさっさと、どんなヒーローなのか説明してよ」

ア　「んー、だいたいイラストからにじみ出るオーラで、どんだけ素晴らしいヒーローかわかりそうなもんだけど……　じゃ、ざっくりと説明していくからね。題して、『マスクドシャンハイ様のここが凄い！』はりきって行ってみよー」

ヘ　「疲れるなぁ……」

○マスクドシャンハイ様のここが凄い！

その１：外見が格好いい！

ア　「はい！　まずは外見。イラストのこの黒い人なんだけど、独特なフォルムが素敵でしょ！　アメリカンなタイツヒーローとは大違い！　アジアを代表するヒーローって言ったけど、格好良さなら世界一だよね！」

日　「そうですねー」

その２：歴史上の人物とも絡んじゃう！

ア　「あと舞台が１９３０年代の上海だから、その時代にそこにいた歴史上の人物とも絡んじゃうんだよねー。川島芳子、小日向白朗、辻政信、鄭蘋如、丁黙邨、李子群、ジェームズ・ボンド、北京原人等々、魅力的な人物がぞろぞろと出てきます」

日　「気のせいか微妙にマイナーな方が多いような……」

ア　「そ、そんなことないよ！　このへんの名前にピンと来た人は、ちょっと遊んでみて

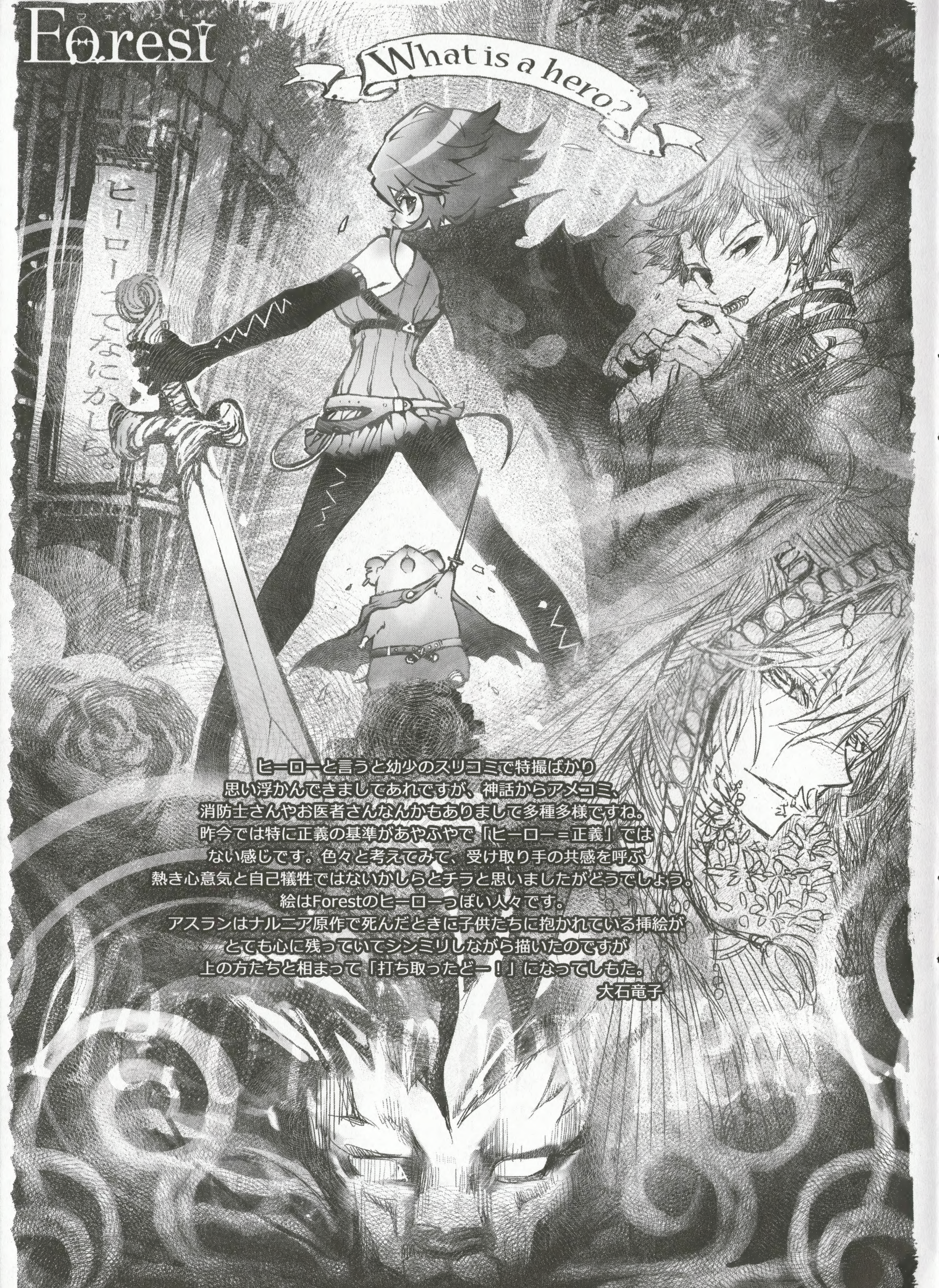
もいいかも知れません！」
へ　「それになんか後半変なのが混じってない？」
ア　「気のせいです！　まぁどんな有名人と並んでも、負けない素敵な魅力の持ち主だけどね、マスクドシャンハイ様は！」
日　「あー、はい。そうですねー」
へ　（あ、日和子もうめんどくさくなってるな……）

その３：敵は地獄の悪仙人
ア　「そしてそして、敵は上海の平和を乱す地獄の悪仙人！　四凶と名乗る四人の怪人に率いられた、恐怖の軍団！この悪仙人たち、元々封印されてたんだけど、あの張作霖が爆殺される直前に解放しちゃったらしんだよねー」
へ　「そうだっけ？　確か俊作がドジこいたせいだったような――　その後始末をしなくちゃならないからっていうんで、仙人に改造されたって聞いたけど？」
日　「そうですねー」
ア　「ふーん。なに言ってるかちょっとわかんないや」
へ　「なんでよ！」
ア　「誰のせいとかどうでも良いのっ。とにかく悪仙人たちと戦うヒーロー、それがマスクドシャンハイ様なのっ！　そういう事になってるの！」
へ　「そ、そうなんだ……」

ア　「というわけで、マスクドシャンハイ様の魅力、分かってもらえたかな！　ちょっとでも興味が出たら、遊んでもらえると嬉しいな☆」
へ　「ダウンロード版もでてるしね」
日　「そうですねー」
三人「それじゃ、またねー」

「マスクドシャンハイ」は好評ＤＬ販売中です！
ヒーローが君を待っている！！





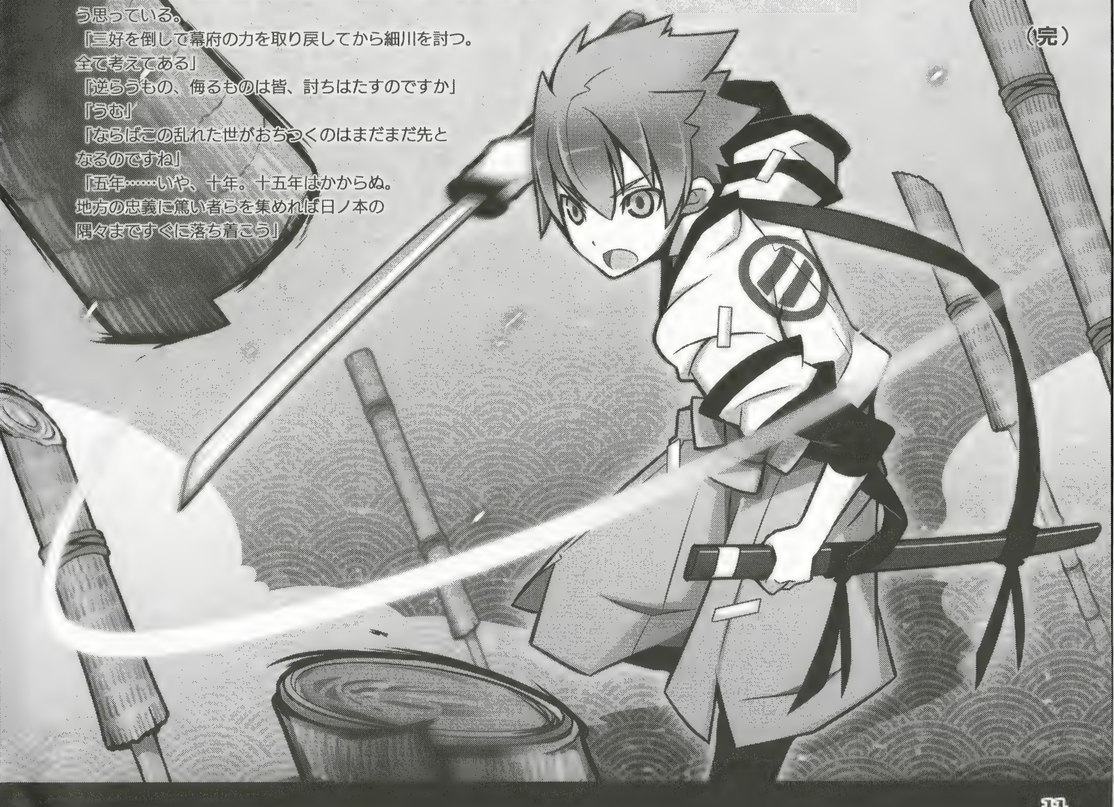
ヒーローと言うと幼少のスリコミで特撮ばかり
思い浮かんできましてあれですが、神話からアメコミ、
消防士さんやお医者さんなんかもありまして多種多様ですね。
昨今では特に正義の基準があやふやで「ヒーロー＝正義」では
ない感じです。色々と考えてみて、受け取り手の共感を呼ぶ
熱き心意気と自己犠牲ではないかしらとチラと思いましたがどうでしょう。
絵はForestのヒーローっぽい人々です。
アスランはナルニア原作で死んだときに子供たちに抱かれている挿絵が
とても心に残っていてシンミリしながら描いたのですが
上の方たちと相まって「打ち取ったどー！」になってしもた。

大石竜子

京都二条御所――

　足利義輝は腰の鞘に刀を納めると玉砂利を鳴らして濡れ縁へ駆け寄る。
「どうだ！　見事であろう！」
　得意げな義輝の笑顔に対して十歳にも満たない小坊主の笑顔は穏やかであった。
「なみなみならぬ鍛錬をおつみになったのですね」
「うむ！　塚原卜伝から直々に学んだぞ！　この剣で足利の世を取り戻せば我ら兄弟、また共に暮らせるからな！」
　小坊主は義輝の弟で覚慶という。幼名は千歳丸。足利家は慣例として嫡子以外は仏門に入る習わしであった。多くの場合は元服の時期に合わせて入門していたが覚慶が幼少期に入門せざるを得なかったのは足利家の不安定な状況が原因である。
　二人の父である十二代将軍足利義晴は三好長慶に京を追われて近江国朽木に逼塞すると再起を果たせないまま病死。義輝が跡を継いで将軍となると「幼い義輝では反三好勢をまとめきれず、千歳丸が武家のままでは良からぬ野望に目が眩む者が出かねない」と覚慶は入門を前倒しにされ大和国興福寺に入った。実は口減らしの口実であったと気づくのは離ればなれになった後である。
「見ておれよ千歳！　予が長慶の首を撥ね飛ばし、三好を京から追い払ってやるからな！」
「されど兄上、三好殿を倒しても細川殿が代わりに京へ入りましょう」
「細川らか。ふん。義満公よりのち、足利家を好きに扱ってきおった報いを受けさせるまでだ」
　足利尊氏によって開かれた室町幕府は三代義満の時代に最盛期を迎え、以降は管領細川家の専横によって衰退の一途を辿った。そして応仁の乱も細川家内の争いが発端となった。少なくとも義輝はそう思っている。
「三好を倒してで幕府の力を取り戻してから細川を討つ。全て考えてある」
「逆らうもの、侮るものは皆、討ちはたすのですか」
「うむ」
「ならばこの乱れた世がおちつくのはまだまだ先となるのですね」
「五年……いや、十年。十五年はかからぬ。地方の忠義に篤い者らを集めれば日ノ本の隅々まですぐに落ち着こう」
「先をいそげば無理もでます。無理のしわ寄せは民にふりかかります。もちろん兄上の身にも」
「ずいぶんと坊主らしい物言いになったな」
　義輝は反論されているにもかかわらず満更でもない。裾を掴み、たどたどしい歩みでついて来ていた千歳丸がしばらく会わない間に説教をするほどに成長したのだ。
「だが、こうも考えられるであろう。無理をしてでも早く終わらせれば、皆が幸せを迎える日も早く来る。長きあいだ苦しむか、短く激しく苦しむか。どちらがよいかなど、誰にも言い切れまい」
　小坊主には答えられなかった。釈然としない物はある。しかしそれを言葉で表すには幼すぎた。難しい顔になった覚慶の坊主頭を撫でる義輝。
「そのような顔をするな。足利家の世が戻った暁には古き慣例など捨て、また共に住もう」
「私はいまのままでもかまいません。兄上さえご無事ならば……私はそれだけでいいのです」
「予も将軍でなければ我ら兄弟の身だけを考えておれたのだがな」
「……将軍職をお捨てくだされ」
「それでは武家の頭領として示しがつかぬ。義満公より後の父祖が武家の本分を蔑ろにした故、細川の跳梁を許して世が乱れた。ここで征夷大将軍である予が逃げてしまっては、世を安んじようと戦った開祖尊氏公や尊氏公と共に戦った者共、その子孫らに会わす顔がない」
「ならば私も兄上と共に戦います！　足利家の男として！」
　覚慶は目に涙を溜めて食い下がる。
「千歳、お前が還俗するのは予が天下を鎮めてからだ。それまでは坊主として経を読んでおればいい」
　義輝は覚慶の坊主頭を胸に抱く。
「任せておれ。予が必ず……」

（完）



星紅駅疾走軌

アステライト☆シッソウキ

――英雄は如何にしてなったか ――

―――私は、卑しい人間なのです。どなたかとお話するはおろか、まともに目を合わせる事さえ許されない。同じ場所で息をする事すら畏れ多い。ええ、むしろ人扱いなどしていただかないで下さいまし。そう、たまさか手足がついている、肉の袋とかそんなもの、と思っていただければ。それだけでも過ぎたる思し召しでございます―――

……青年は困惑していた。それはもう大いに。困惑し、かつ後悔していたとも。なにしろ長い事抱き続けていた宿願が、今日でやっと叶うのだと胸高鳴らせていたというのに。こつこつと懸命に、地道に蓄えてきたクレジットがようやっと、中古とは言え航宙艇一隻を購うに足る額まで届いたというのに。見果てぬ夢の第一歩、星の海と翔びたつ為のきざはしに、とうとう指先がかかったと思った記念すべき日なのに、何故。何故自分は航宙艇の操縦席で喜びを噛み締める事もなく、こんなモノに額づかれているのだ、と青年は虚無感の泥濘に包まれ気が遠くなりそうにさえ。こんな、こんな、泥と垢と襤褸の塊のようなモノ、悪臭の塊のようなそれ。それ、は惨めに卑屈に、とりたて矜持といったものを持ち合わせぬ青年をして、人間の尊厳に唾吐きかけられたような感触催させる言葉を垂れ流しながら、床に額擦りつけ、しまいには足に口づけしてこようとする始末―――故買屋の主人は、一見実直な面つきで、しかしその舌は蛇の邪知に操られていたのだろう。お得な召使だと、宇宙に出ようとする身ならまず身の回りの用を足す手が先決だと、そんな実の無い口上の怒涛で青年を誑かし、挙句、店の片隅にうっちゃられていたズタ袋としか見えなかったソレを引きずり出して押しつけて。実直ではあったが世知には疎かった青年は、かくして航宙艇を購う筈だったクレジットのあらかたを失い、引き換えこんな、これまでもそしてこれからも、必要になるだろうとは到底思えぬ召使、いやさ下僕、というよりはっきり言ってしまえば奴隷を所有する事になり。足下にはいつくばるそれを見れば、今日にも手に入る筈だった夢への第一歩を失ってしまった悔しさがいよいよ実感として募り、明日からの日々の虚しさも予感されて涙が零れそう。

青年は深く懊悩した。失くした分のクレジットを稼ぐための辛い苦役の日々が、明日からまた続くのか、そしてこの奴隷をどう養っていけばいいのか。こんな惨めたらしいモノとはいえ、食べるだろう衣服もいるだろう……。

「します、いいえさせていただきます、なんだって、ご主人様のお望みの事は全て。お心のままにこの卑しい肉袋を、どうかお使い下さいまし……！」

「うわあやめろう、足を舐めるな頬ずりするなっ。臭いんだ、とにかく君は臭くて汚くてたまらない。僕に寄るのはシャワーを浴びてからにしてくれぇっ」

奴隷の卑しさ汚らしさに、反射的に弾き飛ばして足蹴にしそうに、なるところをぐっと堪えて青年はシャワー室を示せば、

「あ。そんな……そのような贅沢など私には。畏れ多い事です、水道代も掛かりますし何よりご主人様と同じ浴室など。そこらへんの溝の泥水で充分でございます、というかご主人様のお小水でも賜ればそれで流してすすぎますぅ」

「君は僕を何だと思っているんだ。僕は悪魔か惑星トンカヌアの上帝族か何かか。いいから身体洗ってこいってば。さもなくば僕は吐くぞ、ゲロするからな」

「お風呂ばかりかお食事まで下さるのですか!?　はい、私の好物はご主人様のお戻しになられた未消化物でございますぅっ」

言葉を発せても、これは話が通じない類人猿か糞尿国の住人か。青年はついには鼻を摘みつつ足でシャワー室に押しやれば、ずるずると、這いずっていく端からちゃりちゃり金属の擦れる音の、それの足首と思しきところから伸びているのが長鎖だ、忌まわしい、奴隷の証としての。ほとほと厭になる。あんな、下水道で数年は過ごさないとああはなるまいという程汚れに汚れた、人とも獣ともつかない生き物を、何故自分の部屋まで連れてきてしまったのか。この先どう扱えばいいのだろう。僅かな遣り取りだけでも疲労困憊して青年は、安ベッドに倒れ込んでぐったりなり、瞼もだんだん重くなる、奴隷がシャワーを使う水音を聞きながら……。

と、青年は、身を押す重みに目を覚ました。怪訝に見やれば、寝惚け眼にもめざましかった。なんとなれば、伏した青年の上にのしかかっていたのは金の豪奢、肌色の艶やかさ、香り立つ野性的な官能だ、まだ濡れ加減で黄金色に流れる髪の、それは女の肢体、豊麗でかつしなやかな、一糸まとわぬ極上の美女の。

「誰、だ!? 君いったい、誰で、いつ僕の部屋に、なんで!?」

混乱しきって掠れた叫びを漏らす青年に、美女は薄っすら微笑みながら、

「誰、と申されましても。奴隷でございます。貴方様の。ご主人様の。忠実で、卑しく哀れな肉袋ですよ」

「え……あ……！　嘘だろ、アレが、あんなのが、この……君だってぇ!?」

不潔と臭気ばかりが前面に立ち、くるまっていたのが汚れきったむしろだか土嚢だかのどろどろした布切れだったものだから、青年は奴隷の男女の別というか雌雄など端から眼中になく、為に目前の女体美と奴隷がどうしても接続せぬ。が彼女の肢体から香るのは紛れもなく青年の常用の石鹸の匂いだ。否、そればかりではなく女の肌の匂いも含んで鼻先に仄かに甘い。女の香りとそして、腹の上で柔らかに、重たげに揺れる、張り切った乳房の円みに頂の尖りの朱鷺色に、青年の男が本能的に反応していた。まだ若く、肉体的に健康な男性である。当然の身体の変化をしかし、恥じて咄嗟に隠そうとする青年の初心なるを、奴隷は見入った。陶然と、喜ばしげに。

「はい、私ですよ……ご主人様の、卑しく浅ましい奴隷です……本日より貴方様の所有物としていただき恐悦至極に

存じております……ご主人様の持ち物となりましたもの、夜のご奉仕だって当然……いたしますね……」
「え。ちょっと。君何考えて。え。え。冗談だろ、まさか本気で……!?」
「本気ですとも。私は卑しく取るに足らない肉袋。ご主人様のお心のままに、どうなと扱ってくれていいのです」
呆気に取られる、を通り越して空恐ろしくなった青年は、彼女を押しのけようとした、手が柔らかなのに張りがある肉に埋まっていた。奴隷の乳房と臀を掴んでいた。彼自身がしたのではなく奴隷自らが青年の手を引き寄せて。
———この夜青年は。目前にしていた航宙艇を掴み損ねて引き換えに、なるのならないのか女奴隷を押しつけられ。航宙艇の代価を稼ぐ事に手一杯で、人生のろくな愉しみも知らず、異性と触れ合う機会さえ稀だった青年は、奴隷を買わされたその夜に。彼女の肉体で、初めて女体の甘美なるを教えこまれたのだった———

◆　◆　◆

昨晩の肉交は淫らな夢のようであっても、青年の肌に、男の部分に女体の蠢きが名残りを置いて、つい茫然と呆けてしまいそう。油断するとふらつく腰に活を入れながら、どうにか普段通り同僚よりも早く、町工場に出勤した青年なのに、けれど待ち受けていた宣告は理不尽かつ非情だった。
「ああ君、とても心苦しいのだが、君は明日からここに来なくっていいから」
「……いま、なんと?」
「いや済まない。別段君の勤務態度や能率に問題があるというわけではなくしてだね、ただウチも折からの不景気、経営状態がどうにも思わしくない」
「そんな、困ります僕は……ここクビにされたら……」
馘首を告げた工場長に、どう食い下がっても無駄の無駄。ばかりか、どんな不運か、掛け持ちの副業も同様に解雇の憂き目を見た。青年の目には宇宙港周りの気荒であったが活気ある街並みも、総出で喪に服したよう灰色に映った事である。悄然と項垂れて、アパルトメントに戻る青年の胸中にはあの女奴隷の事が、重い厄介事として膨れ上がる……とドアを開けた部屋は、彼の部屋の筈なのに彼の部屋ではなかった。そこには豪奢がしろしめしていた。どちらかといえば殺風景だった部屋が、富豪の居室顔負けの贅沢な家具調度に調えられ、床には分厚い絨毯まで敷かれている。狐媚に逢うた心地の青年を、出迎えてまた跪拝したのがあの奴隷。
「お帰りなさいませご主人様。お靴をお脱ぎ下さいませ、おみ足を洗わせていただきます。もちろんこの卑しくしがない奴隷の口で拭って下さるのなら幸せです。あ。私としたことが。そんな事よりまず先に、一日のお仕事で溜まっていらっしゃる、殿方の生理のお慰めいたしませんと——」
とか何とか、股座に縋りついてくる柔身だけで青年ははや催しかけたけれどどうにか奴隷を押し離した。
「い、いいから。帰ったばっかでそういうコトはアレだから!というかこの部屋は何なんだ。この家具とか絨毯とかどうしたんだ。こんな高価そうな……」
「ええ、はいご主人様。ご主人様と見比べて、室内がいささか寂しいかと見受けられましたので、この卑しく愚鈍な奴隷なりに調えさせていただきました」
「いや僕は前ので充分……だいたいこんな高そうな物、僕の給料何か月分、ってまさか!?」
えらく悪い予感に蹴り出されて室内据え付けの電子端末に飛びつき、自分の口座諸々を確認し、途端青年の背中に戦慄が粟立った。
「うわあああっ。やっぱりかぁっ。僕の口座が、クレジットが等級の限度額を超えてマイナスになってる……こんな借金どうやって」
白目血走らせながら振り返った青年の目に、奴隷の肌が厭になるくらい艶やかに、乳房も脚も露わに。
「それに———君のその格好もなんなのか。僕は出る前一応だが服渡したよな、その筈だよな!?」
奴隷には裸で充分でございますと、朝もはよから生まれたままの姿で室内を這いずりまわる奴隷の姿に動揺し、取り敢えず作業服の替えを投げつけて出たはずなのに。
「ご主人様のお召しでは、この卑しくだらしない奴隷などには勿体無さ過ぎますもの。ですので、相応のなりを、と」
現在の奴隷の姿はといえばこれがまた、涼しげなメタル製と思しきブラジャーに前垂れ、奴隷の女性らしさを隠すどころか淫猥に浮き立たせた。例の鎖だけが変わらず足首からちゃらちゃら伸びて、確かにある意味で由緒正しい奴隷の正装であると言えば言えたが、それはハーレムとか閨房に侍らせる類のそれ。
「あの、お気に召されぬようでしたなら、私はいつでも裸に戻りますけれど」
あくまでかしずく態だが、かといって悪びれた風もなく、青年は最早澱んだ目つきを浮かべるしかなかったとか。
「あのな、僕は航宙艇さえ手に入ればそれでよかったんだ……奴隷とか、こんな贅沢とかなんかするより先に。どうするんだよこれ……借金どころか、仕事全部クビになって明日からどう生きていこうと大変な時なのに……」
「まあ。気落ちする事はありませんわご主人様。ご主人様を馘首にするような勤め先など、遅かれ早かれ倒産するに決まっていますもの」
「君褒め殺しはいいから。今の仕事だってようやくありついてたザマなんだぞ」
「はて?　この卑しくさもしき奴隷の見受けましたところ、そちらの端末に先程からひっきりなしに届いておりますのは一体?」
女奴隷に示されて青年は、端末の画面に電子郵便の新着情報の、絶えて無かったほどの数を見た。とはいえどうせ広告か詐欺の類、と期待薄で確かめてみれば。
「……嘘だろおい。なんで今頃になってだ、あそこやあんな所からの連絡が……面接受けたっきり今まで音沙汰もなかったのに」
それらの電子郵便はいずれも、青年が少しでも稼ぎを増やすべく、手当たり次第に採用試験に挑んでみたものの、

以降音信が途絶えいた企業からのもので、しかもどれも業務の急募があるによって乞う連絡、といったものばかり。まだ夢の中にいるのかと、顎を落とした青年の脇で、女奴隷はただ膝ついて、にこやかに微笑むのみ。

◆　◆　◆

軽く転がった小石が激甚なる岩崩を呼ぶように、青年の日常の激変は止まらなかった。件の急募に半信半疑で連絡を取ってみたところ、以前は取り付く島もなかった企業が青年を採用した様は掌返しの見本というもの。前の働き先とは比較にもならぬ好待遇と高給に、青年の借金残高は見る間に減じていき、暮らし向きも上調子さ、さっさと縁切るつもりだった奴隷は当然のように居ついたばかりか、売り払う筈の贅沢な家具もその都度彼女にはぐらかされてそのままに、近頃では馴染みつつある青年だ。これはまずいのではないか、とふと自省に駆られる瞬間もあり、殊に奴隷に家計と気の引き締めの必要性を説いていたつもりが、何時の間にやら彼女を組み伏せ、艶麗な臀を背後から強かに犯していた時など特に。というより青年の方が奴隷の巧妙な媚態にまんまと乗せられている節がある。

兎も角も、新しい職場の上司の覚えも目出度く、やがて上司は青年のアパルトメントの訪問を希望してきた。なんと上司の上司、つまり企業の社長令嬢が、先だって偶然に青年を見初めて忘れられず、叶うなら会食の席など共にしたい、との由。青年の私室で、ゆっくり日取りなどに話し合いたいとの由。唐突な展開もさりながら、奴隷に告げにくかったのは彼女との肉体も含めた関係もあるによって躊躇われたからだが。

「ご主人様の秀抜なる事、女性であれば心惹かれて当たり前にございます。それでこの卑しく無能な奴隷に何をお望みでしょうか。その取締役とやらがご訪問の折には、奴隷はこのだらしない身体をもっておもてなしすればよろしいのでしょうか」

「今回はそういうのは、ホント要らないから、真剣に。君にはその日、悪いが席を外していてもらいたい」

とて、どうにか言い聞かせ終えたのは、奴隷に祝福の接吻の嵐と淫猥な愛撫を浴びせかけられ、濃密な肉交を三度ばかり立て続けに貪られた後の事。奴隷との関係の清算を先延ばしにしてしまっている青年を責めるには、毎回の事だが肉の快楽に圧倒的に過ぎた。

で、その日奴隷は、流石に青年の言いつけを聞き分けて、どこやら外出しているようだった。上司は青年の、歳に似合わぬ家具への審美眼と表に出さぬ謙虚さを褒めて一しきり。どうやら真情を交えていた風なところからして、訪問はいいスタートを切ったと見えて、青年は胸の裡で会心に拳握った、よりにもよってその時に。ドアが叩扉もなくけたたましく繰り開かれて、飛び込んできたのが肉塊の、白く華々しく躍動していた。金髪がたなびいていた。

「ご主人様あああ！　有りました、有ったのですご主人様のかねてよりのお望みの物が！　これもご主人様の陰徳の賜物ですが、僭越ながら見つけてきたこの卑しく醜い肉奴隷にも、どうかお情けを賜りたく———あら？　こちらは？　お客様？」

「ひいいい、なんてタイミングに君は!?　あ、後にしてくれ、少なくとも今だけは———」

奴隷はよもやその格好で出歩いているとは驚愕の、例のスレイヴ姿でただでさえいかがわしいのが、飛び込んでくるなり臀を突き出しおねだりの、青年が泡喰って卓布を引き剥いで彼女に被せたが遅い。青年は、怖々上司を見やれば、煽りで卓から弾け飛んだ茶の飛沫に顔一面濡らし、そして立ち上っているのは茶の湯気ばかりに非ず、それは怒気———無言なのが恐ろしい。無言のまま立ち去る後ろ姿が青年の逆玉の輿とか出世だとかの破滅を雄弁に語っていた。

「終わった……なにもかも……ようやく順調に進んできたと思ったのに……」

「はて？　ご主人様の未来はこれから拓ける訳ですが。会社？　社長令嬢とのご婚約？　うふふ、おかしなご主人様。ご主人様がそんなちっぽけな人生に収まるような器でない事くらい、この卑しく穢れた肉袋にだって判りましてよ。それより問題はこちらの事」

くずおれた青年の前に、奴隷が記録球体から立体映像に映し出したのが、航宙艇のシルエットだったのだ。

◆　◆　◆

自分はやはり、夢の中に彷徨っているのではないか、とまた自問する青年に反して、手を這わせた操作盤の硬さや背に応える椅子の硬さは現実の中にある。航宙艇の操縦席に座した青年の、風防越しに広がる視界は無限の深淵、ぶちまけられた無数の煌めきは全て星。

……あの日女奴隷が持ち来たったのは、その類の商人には目を光らせていた青年をして、都市にあるを見落としていたくらいの零細事業者が出していた、中古の航宙艇売却の報せであった、破格の値段で。表記上の諸元は青年の要求を充たし、実物を検分に行ったところ相手が頑迷固陋を人の形にしたような老爺で、交渉が殴り合いとなり決裂確実の筈が何故か気に入られ、捨て値同然で売却してもらった時も、厄介な整備の時も、初飛行とそして初進宙の時も、何時だって奴隷は青年の傍に侍っていた。今も。操縦席の足元に四つ這いとなり、青年の脚を愛撫している。

「素晴らしいですわ、ご主人様。さて、これからどちらに参りましょう。この卑しく恥知らずの雌奴隷は、何処だってお供させていただきますとも」

◆　◆　◆

それから、それから。青年はどれだけの冒険と遭遇した事だろう。とある惑星で奴隷が拾い上げた、愛玩動物のような小竜が、恒星をも消滅させる宇宙怪獣の幼生である事が判明し、軍、賊交えた三つの勢力とやり合う事となったり。宇宙の辺境で救難信号を受け、救い出した少女を、女奴隷が青年の奴隷二号に仕立て上げた後でとある有力惑

星の第一王女であると判明して王家からの追手がかかったり。女奴隷の操作ミスで辿り着いた原始惑星で、原住民同士の殺し合いを横殴りに有耶無耶にしてみたり。それらはまだ些細な部類で、青年はその後三度ほど滅びゆく惑星文明を救い、一度などは星間連合の戦争を停戦に導き、しまいには三つの銀河系に勇名響かせて、宇宙英雄の称号を冠されるに至り———

やはり、女奴隷は常に青年の傍らにあった。事ここに至り、いい加減青年も理解していたのだ。この奴隷こそが、自分をここまで数奇な運命に導いた張本人なのだ、と。

◆　◆　◆

とある緑の惑星の、草芳しき草原で。

青年と女奴隷は別離の時を迎えていて、二人の間にはこれまでの旅路が浮かんでは流れていくかのよう。女奴隷は、青年の正面に対峙して、その時初めて彼は、それまで足下に伏すばかりであった彼女の直ぐなる立ち姿を見たようにも思う。そんな彼女の背後、彼方から天空を切り裂いて全く未知の方式の駆動音轟かせて、飛来せしモノやいかに。やがて彼女の後方に着座したそれは航宙艇、存在自体が全ての航宙艇と科学技術への冒涜であるかのようなオンボロもいいところの艇ではあったが、青年にはその艇に内在する信じられないほど強大な力を見て取っていた。それが、彼女の艇なのだ、とも。

「航宙士が、長く離れていた自分の艇を取り戻した、って顔だな、君———ああ、そうか。今この時が、君とのお別れなんだろう。なあ君、最後までちゃんと名前を教えてくれなかった君。良いだろう？　この時となったからには」

「ご主人様の勘働き、なんてご立派に。ってそろそろこの口調はもういいか。

アタシはゴドー。ゴドー・トルクエタム。そんで後ろの艇がアタシの艇で『黴毒(ポックス)』号っていう。アンタと会う前、ちっとひどく壊しちまってね。自己修復が終わるまでこんだけかかった。

ま、アンタとの事は、言ってみりゃあ身も蓋もないが、それまでの暇潰しってさ。でもそろそろアタシも本業に戻るよ、アンタと同じ、航宙士に。

……なぁに、また会えるさ、縁が有ったらね。じゃああばよ。アンタと一緒にいられたの、中々に素敵だったよ———」

———草原を、別れる二人はそれぞれ背を向けて、一人は今や大胆不敵な光を眸に帯びて、今一人は名残りを惜しみつつ、それでも晴れやかな男の顔で———

———英雄は如何にしてなったか・了———



黄雷のガクトゥーン

『彼のいる一日』

油断した。
それが、あたしの実感だった。

視界も、意識も、ぐらぐら揺れて。
あれ。何だろう。ちょっと姿勢を崩しちゃったのかな。
加熱の加減を確かめておこうと、調理機関（クッキングエンジン）の計器を覗き込もうとしていたところだったから、そういう風に思ったものの。
自分を誤魔化せたのは最初の二秒だけ。
すぐに分かってしまう。
ああ、これは。
目が回る。
ぐるぐる。
頬が内側から火照ってる感じ。
頭と体が重い。
まだ夜の冷たさが残ってる水に触れて、冷たくなっていた手の甲で額と頬に触れると、ひんやりとした感触に混ざった熱さ。
うん。熱い。
ひどく熱い。
言うまでもなく、熱が出てる。
どうやら、あたしは──
ネオン・スカラ・スミリヤは、風邪を引いてしまったみたい。
昨夜のお風呂から出た時、ちょっと、空気の冷たさをいつもより強く感じたかなとは思った。思ったけど。まさかあの時？
いつも気を付けてるはずなのに。
ああ、もう。悔しい。
油断した！

†††

いつも通りの朝だった。
マルセイユ洋上学園都市、旧大使館通り。旧英国大使館こと思弁的探偵部の穏やかな朝の風景。
食卓に並ぶのは量のお料理。
いつもの畜肉部のお店が質の良いものを安売りをしてくれていたので、それなら、と買い込んだ牛肉を使って、新大陸風に分厚く切ったステーキやビーフシチュー、ローストビーフ。その他にもあれこれと。
ソースには、たっぷりの肉汁を使ったグレービー。お肉料理だけでなく、ふかふかのマッシュポテトにも沢山かけて。
さあ、どうぞ。
めしあがれ。
「ん。いただこう」
いつも通りの朝の風景。
沢山のお料理と、それを食べるマスター。
あたしの彼。あたしのマスター・ニコラ・テスラ。
何とか。ええ。あたしは、朝のお仕事をやり終えて。
もりもり食べる彼を見つめながら──
ぐるぐる。ふらふら。
目が、回ってる。
体が熱い。もう、お肉を焼くオーブンや調理機関の近くにいる訳でもないのに、汗をかいてる自分自身がわかる。
熱い。でも、なんだか寒いような感じもあって。
やっぱり熱出てるよね、これ。
授業は出られない、かな。
朝食が終わったら、ベッドで休もう。
それまでは、マスターに気付かれないようにしよう。せっかく頑張って作ったお料理、彼に全部ぺろりと平らげてもらうのを見ないと何だか悔しい。
だから、それまでは少しだけ我慢。
大丈夫。ちょっと、熱が出てるだけなんだから。
平気、平気。
「ネオン」
「はい」
「とても、旨い」
「良かった。牛肉さんが安くしてくれたんですよ、畜肉部のひとのいい部分を選んでくれて」
「……ネオン。主語と目的語がおかしい」
「はい」
え。何？
あたし、変なことを言った？
「具合が悪いなら、何故そう言わない。いや。私が気付くべきでだったが、体温変化は調理時の火のためかと早合点した」
「え、っと」
彼が何を言ってるのか、よく分からない。
ううん。分からないのは言葉だけじゃなかった。
ぐるぐる。
ふらふら。
視界も、なんだかよく分からないことになっていた。
目で見ているものが把握できない。マスターが、あたしのことを見ているのだけは何となく分かるものの。
もしかして。
あたし、自分で思うより──
具合。良くないのかな。
「マスター、すみません。あたし……」
「分かっている。もういい、休め。力時の後片付け等は考えなくていい。登校も控えろ」
「……はい」
何とか、立ち上がって。
何とか、彼に、笑顔を向けて。

心配しないでくださいね。
これくらい、少し寝ていれば治りますから。

そう言って。
いつもの食卓を離れて──
「マスターは、ちゃんと授業を受けてくださいね」

「ん」
分かったような、分からないような彼の返答。
ちゃんと返事してください。そう言おうと思ったけど、うまく舌が回ってくれる自信がなかったから、取りあえずそのまま。
居間兼食堂から出て。
二階へ上がって、自分の部屋へ。
なんとか、寝間着に着替えて。
後はもう、まっすぐに。ベッドに直行。

†††

そして、あたしは夢を見る。
夢。眠った自覚があったから、そう、これは夢。
そうなのだと思う。

暗い場所だった。
暗い空間。暗い世界。
あたしは、ぷかりと浮いていた。
暗くて黒いところで、ぷかり。

そこに、現れたものがあった。
黒い手。たくさん。

逃げよう。
そう思ったけど、あれ。動けない?
あれ。あれ?
あたし、浮いてるけど、水に浮いてる訳じゃない。
手足をばたつかせても位置が変わらない。
そうか。これって。あたし、逃げられないんだ。

どんどんあたしに迫ってくる。
黒い手。たくさん。
逃げられない、あたし。
誰かが笑う。

それは仮面。
それは黄金。
世界の暗がりのどこかで今も哄笑する、黄金の面。

†††

あたしは、目を覚ます。
あれ。明るい?
そう思いかけたところで、やっと記憶が繋がってくる。あたしは眠って、夢を見て、今、目が覚めたところ。多分、ベッドに入ってから数時間くらいだと思う。
夢の最中にはちゃんと眠る前のことを維持できていたのに、起きた瞬間にぼやけてしまうのは何だか釈然としない。
でも、ともかく。
夢で良かった。
夢だと、わかってはいたけれど。
悪夢。かな。
あんまり、気持ちのいいものじゃなかったし、寝覚めも。
そう、うなされながら目を覚ましていた気がする。
「ん……」
枕元の時計を確認。
お昼過ぎ。
予想の範囲ではあったけれど、割と時間が経っているほう。
五時間以上は眠れたのかな。
そろそろ何か、お腹に入れておかないと。食欲はまったくないけれど、風邪はパンの陰に隠れるものよ、とよくお祖母さまが言っていた。うん。何か、食べておかないと。
なんとか起き上がろうとしながら——
自分の状態を意識してみる。
目のぐるぐる。だいぶ、収まった。
体のふらふら。なんとも言えない。
体の重さは、まだ残ってる。
起き上がるのは、ちょっと、つらいかも知れない。
「思ったより、きつい、かな」
元気のない声。
朝食の時も、こんな風だったのかな。
嫌だな。もっと、明るい声がいい。
マスターに聞かせるあたしの声は、もっと。ね。
とりあえず、お水、飲んでおこう。そう考えかけたところで、ああ、まっすぐ部屋へ上がってしまったから、何も持ってきていなかったことを思い出す。
と——
「入るぞ。ネオン」
返答する前に、扉が開いていた。
あたしの視線の先に、彼の姿。
マスター・テスラ。
「起きたか。丁度いい、食事ができたぞ」
「ふぇ……」
マスター?
え。なぜ?
授業に出てくださいねと確かに言ったはずなのに。
あたしは、驚いてしまう——以上に、不意を打たれたみたいな気持ちになって。
寝起きで。寝間着で。
髪も梳いていない、そんな状態のあたしなのに。
嫌。見られたくない。
こんな——
「……」
駄目です。寝起きです。ちゃんとするまで出ててください。
気持ちを視線に込めて、あたしは、彼を見るのだけれど。

駄目だった。
彼。マスター・テスラは、幾度かの失敗を経ながら厨房で格闘を続けた結果、極東風の病人食を作ってくれていて。熱々のうちにあたしに食べさせる、というはっきりした目的を持った彼は、あたしの視線に負けなかった。

彼の、手料理。
前にも何度かお料理しようとはしていたものの、あまり、成功したとは言い切れない、かな。
でも、今回のマスターは少し違っていた。
極東風のお料理。
オートミールのような、リゾットのようなもの。どちらかと言えばリゾットなのかなとは思うけど、チーズはない。消化に良くないし、病人食というなら、それはそうね。
お米を炊いたものを、溶いた卵と一緒に煮込んだもの。
とても、いい香り。
「口を開けろ」
「ぇ」
「以前、お前が私にしてくれたこともあったな。あーん、だ」
「……」
ま、まさ、か。
彼が手ずから？　あたしの口に？
「ネオン」
「……」
「俯くな。顔を上げろ。そして、口を開けろ。あーん、だ」
「……ぁ、あーん……」
うう。
これって。
これって！
自分が“する”のは楽しかったけれど、でも！
誰かに“される”のって、こんなに。こんなに！
恥ずかしいものなの！？
頬、ううん、もう、顔全体が熱い。熱のせいなのか、熱いお料理のせいなのか、恥ずかしいのか、分からないくらい。多分、もう絶対にあたし、今、顔、真っ赤になってる。
「ネオン。呑み込んだな。よし、次だ」
「あーん……」
「いいぞ」
何が、いいぞ、だっ。
自分が、まるで小さな女の子になってしまったみたい。優しくされているとは分かっても、でも、この恥ずかしさは、もう、どうしたらいいのだろう。
どうにもできない。
ただ、ただ、あたしは「あーん」と口を開いて。
彼に、木製のスプーンで料理を食べさせて貰って。
時折、水差しで、お水を飲ませて貰って。
その繰り返し。
実際にはそんなに経っていないはずなのに、食事を終える頃には、一時間くらい経ったような錯覚さえ。
「よく食べきった。偉いぞ」
「……」
早く、終わらせたかったからです。
もう解放してください。
もう眠らせてください。
「随分、汗が出ているな」
「え……」
それは、確かに。
気付けば、あたし、汗をびっしょりかいていて。
額にも、頬にも、首筋にも。
寝間着の下にも。
熱のせいなのか、熱いお料理のせいなのか、恥ずかしかったからなのか、よく分からないけれど。
「待っていろ」
そう言うと、彼は一度部屋を出て。
戻って来た時には、白い蒸気を上げているお湯入りのボウルと、タオルを携えていて。

「服を脱げ。ネオン」

「い、いいです。自分で……」
「出来んだろう。いいから脱げ。体を拭くぞ」
あたしはそれでも抵抗したほうだと思う。
結局のところ、彼は、頑として、一度決めたことはまったく変更してくれなかった。

それで。仕方なく。
あたしは、寝間着を脱いで——

体じゅうにびっしょりかいた汗を。
彼に、拭いてもらうことに、なってしまって。

それで——

ああ、もう。
まだ、お昼を過ぎたくらいなのに。

それで、こんな。
こんなのって。

残り半日、どうなってしまうんだろう。
そう、思いながら——

（了）

●『黄雷のガクトゥーン』『黄雷のガクトゥーン：SHINNING NIGHT』好評発売中
●ノベル・アンソロジー、ドラマCD、タペストリ、缶バッジ等の各種グッズも好評発売中




たのもー!
ドバーン
あ。
…ごめんなさい
また後で来ます
2時間くらい
みときますので･･･
ギー‥
丁寧語!?
Seven Bridge?
蔵女とエマの
キャッセラン
CASTELLAN
たのしいゲームコーナー
前回の屈辱！
忘れてはいない!!
今日の勝負は
これだー!!
カラン
カン
カラン
あーもー‥
うわああ
ちらばるぅー
このキャッセランは
机の上でお城を
組んでいくゲームです
プレイ中の図
お城を組むパーツは
塔と長い壁・短い壁の
３種類
←ここで組みあわせ
あとカードがありまして･･･
?
出したカードに描かれた
ぶんの建材を材料に
塔と城壁をつなぎ･･･
カードはあるだけ
出してもOK

Seven Bridge?



細かい庭を量産するもよし、ロマン輝く巨大中庭に挑むもよしのゲームです。
2人用のゲームですが、もう1セット買って4人プレーも楽しめますよー。



今回はまともなヒントがあったせいか正解者が!
竜宮さんとトリスメギストスさんおめでとうございます。ポイントは3pでいいのかな…教えて偉い人!!
残念ながら外れてしまいましたがお便り下さいましたJohnny-Tさんと悠季さんもありがとうございます!

次回…初夏と言えば？

『ゲーム！ ゲーム！ ゲーム！』

がたん、ごとん。
揺れる。揺れる。
一輛だけの地下鉄の“部屋”の中で、窓辺に頬杖を付きながら代わり映えのしない暗い【隧道：トンネル】を眺めて。
もう、どれくらいの時間こうしているんだろう。
割と長い時間が過ぎている気がする。
それは紫影の果てへの道のりのさなか、旅の途中。
リリィ・ザ・ストレンジャーは――
とても、退屈していた。
退屈で退屈で、あまりに退屈すぎて、やることもなくて。すぐ近くに立った背の高い車掌は、何かをリリィが言えば応えてはくれるものの、あまり会話は長続きしない。
この頃は、まだ、本を読み上げて貰うような習慣もないから、ただただリリィの退屈は膨らんでいくばかり。
「……つまんない」
ぽつり。言葉が漏れる。
食事したばかりでお腹も減ってはいない。
まだ夜じゃないから眠くなくて眠れない。
つまらない。
頬が、勝手にぷくりと膨れる。
退屈が不満に変わっていってしまいそう。
もう、眠くないけど、眠ってしまおうかな。
そうリリィが考えかけた頃、車掌が突然言葉を述べた。
それほど退屈なら、ゲームをするのはどうだろう。と。
「ゲーム？」
「人間の作り上げた文化のひとつだよ。その歴史は古い。道具を用いて、遊興にいそしむ。ある程度の余裕があってこそ生まれる文化ではあるけれど、退屈を消して“楽しめる”ものだ」
「楽しめる」
「ああ」
「それって、あたしにもできる？」
「大人も子供も等しく楽しめるはずだね。試してみようか」
そう言って――
背の高い彼、Aが取り出したのは、いくつかの道具。
カード。
盤と駒。
サイコロ。
紙と鉛筆。
【固い札：ドミノ】。
紙と鉛筆は、何となく見覚えがあるような、ないような。他はあまり自信がなくて、リリィには知らないものばかり。どういう風に使うのかさっぱりわからないのに、どうしてか――
見ているだけで。
わくわく、してくる。
記憶がないはずなのに。
空っぽの頭でも、これは、楽しめるもの？
「このカード、何？」
「トランプだよ。これ一式でさまざまな遊戯が可能になる」
「数字と、記号かな。あ、絵がついてるのもある」
「王、女王、騎士を示している。
【長剣：スペード】はダビデ王、パラスアテネ、オジエ。
【心臓：ハート】はシャルルマーニュ王、ジュディス、ラハイエ。
【貨幣：ダイヤ】はシーザー帝、ラケル、ヘクトール。
【棍棒：クラブ】はイスカンダル王、アジーン、ランスロット」
「ふうん」
よくわからない。
でも、Aの話をこうして聞くのは悪くない感じ。
「こっちの、盤と駒は？」
「チェスだね。王、女王、城塞、僧侶、騎士、歩兵、六種の駒を駆使して二名が競う遊戯。トランプは二名以上でも遊べるけれど、チェスは二名で遊ぶそうだ」
「また王さまとかいるんだね。関係ある？」
「どうかな」
「あるんじゃないかな。ありそう」
また、王さま、女王さま、騎士。
どういう関係があるんだろう。
「じゃあ、これは？　サイコロ、だよね。名前は、うん、記憶にあるような気がする。これも王さま？」
「これは乱数発生装置だよ」
「？？」
「古くは、占いに使われていたとか。王族が用いていた、という記録もアジアにはあるようだね」
「あ」
また、王さま！
なんだろう。あれもこれも、王さま！
きっと、何かの関係があるに違いない。
そういう風に、リリィの中で想像が膨らんでいって――

あっという間に、退屈は吹き飛んでいた。
由来を聞くのも面白いし、それに、まだひとつも遊び方を教えて貰っていない。どれもふたり以上で遊ぶものばかりのようだけど、大丈夫、この“部屋”にはちゃんと、ふたりいる。
きらきらと目を輝かせて、リリィは道具の群れを見る。

――知らないもの、たくさん。
――わくわくする、たくさん。

――どういう風に遊ぶんだろう。
――遊んだら、どういう感じになるんだろう？

（了）



※今回コーナータイトルをお伺いするのが間に合わなかったので、編集部にて勝手に決めてしまいました。次回から変わるかも……。

カノー・アットマック Kanou@Mac（※）

■ 有象無象の足に踏まれて

そこにいてここにいない象さんのお話。

あらそんな大きな足跡つけて、でも溜まった雨水飲みに小鳥が集まり、小鳥を狙ってキツネが来たかと思ったら、ライオンさんがむしゃぱくり。その上から象がドーン！　しかし寸前にライオンさんは叫ぶ！

「残念だがお前は無象でここにはいない！　なので私は踏み潰されない！」

「しまった！　だが良いのか？　なれば足跡は消え水たまりはなくなる。つまり小鳥もキツネもいなくなりお前の腹は」

「ふぁっ！（ぐうぅぅ～）おなかすいたよぅ……ごめんなさい、やっぱりあなたはここにいまムギュッ！」

ライオンさんは、象の足から逃げることはできませんでしたとさ。

……自分らしいコラムって、こんな妄言でもいいんですかね？　……あ、ダメ。あの温厚なしまさらさんがメッチャ怖ェ目で睨んでくる。怖いので真面目に。ハチポチの後に出しかけた企画をこっそり公開！　この恥晒しめ！（セルフ罵倒）

『――それは、５２人＋『あなた』の物語。

ライアー＆レイル世界にいつの間にか現れていた無慈悲な異邦生命体。ソレは世界の主人公たちの魂を誘拐した。奪われた魂の力はトランプという形へと変造複製され、世界にバラ撒かれてしまう。

カードを手にした人々はその力に魅了され、自らがヒーロー／ヒロインであるかの如く勇み立った。崩れる世界のバランス。そして暴走した彼らの欲望は、いつしかカードに封じられた魂までをも魔に染めてしまう……。

画面の向こうに見えるその様子に驚き戸惑う『あなた』の前で、突然世界の扉は開く。“１輌だけの地下鉄”から転がり出てきたのは傷ついたA。彼は言う「リリィが囚われてしまった。力を貸してほしい」と。

……さあ、どうする？　いや、決まっている。

『あなた』ならばきっとそうしてくれる。

『あなた』はAと共に戦う決意を固めてくれるだろう。

『あなた』はAと共に“１輌だけの地下鉄”に乗り、リリィを始め悪堕ちしたキャラクターたちを助けだすため、ライアー＆レイル世界へと旅立つのだ』

っと、規定分量が迫っていますのでここまでとさせて頂きます。もし、次回も続いていましたら、またこのコーナーでお会いしましょう。ではでは。

（文責：加納京太）

★禾刀郷（のぎふなさと）の★ ライアー★カクテルコラム

スクリプターの禾刀郷でございます。

お蔭様をもちましてPSP/Xbox360版『紫影のソナーニル Refrain』が無事発売と相成りました。お楽しみいただけておりましたら幸いです。

同作の発売を記念いたしまして、ソナーニルの登場人物やエピソードにちなんだカクテルを、数回に分けてご紹介できればと考えております。

しばしお付き合い頂けますようお願いいたします。

第１章：ヴェラザノ海峡街　1st Chap. Verazano narrows bridge

エリシアがNYに初めて足を踏み入れ、リリィが目覚めた第１の街、ヴェラザノ。

ヴェラザノ・ブリッジの架かる《ブルックリン》や、《ニューヨーク》自体の名を冠したスタンダードカクテルもありますが、折角ですので今回は少々珍しめのレシピを２つご紹介いたします。

『ようこそ、ヴェラザノ海峡街へ。可愛いリリィ・ザ・ストレンジャー』

《ウェルカム・ストレンジャー》 Welcome stranger

ドライジン	1/6（※）
ブランデー	1/6
カロリックパンチ	1/6
グレナデンシロップ	1/6
レモンジュース	1/6
オレンジジュース	1/6

☆シェイクしてカクテルグラスへ。

柑橘とシロップの甘酸っぱさに隠れて強かさを秘めた、ミリア・ストークのような一杯です。

材料の１つカロリックパンチ（プンシュ）はスウェーデンのお酒で、残念ながら入手困難です。後継商品のカールスハムス・フラッグパンチが僅かに本邦でも流通しているようですが……。もし幸運にも手にすることができましたら是非お試しください。

《テイク・ジ・エイ・トレイン》 Take the 'A' Train

ウイスキー	1/3（※）
ダークラム	1/3
生クリーム	1/3
カルーア	1tsp

☆シェイクしてカクテルグラスへ。

ジャズのスタンダードナンバーをイメージしたカクテルです。ブルックリンからマンハッタンをつなぐ地下鉄８番街急行“A”。漆黒の肌を持つ謎の車掌Aの風貌を思わせる一杯です。マラスキーノチェリーを沈め、青年の赫眼に見立てるのも一興でしょう。

こちらは定番素材で作れるレシピですので、ご家庭でもお楽しみ頂けるかと思います。ただしスタンダードカクテルではありませんので、バーでご注文の際はレシピのメモをお忘れなく。

『きみが果てを目指すなら。服も、地下鉄も、きみのものだ』

次回は第２章の舞台ブロンクスにちなんだカクテルをお送りする予定です。

申し上げるまでもありませんが、お酒は20歳になられてからお楽しみください。

※ショートカクテルでは１杯を60mlで計算します。1/6なら１杯あたり10ml、1/3なら20ml注いでください。1tspは約5mlです。

祝 百合霊さんドラマCD発売！ 大座敷炬燵対談



■屋上の百合霊さんドラマCD第一弾「恋人ごっこ」
阿野に何度目かのモテ期が襲来! 過熱するファン達をどうにかしようとした、その方法とは? 阿野、結奈、比奈、音七が登場する屋上の百合霊さんドラマCD第一弾!
ドラマ本編に特典音声、ジャケット絵はもちろん描き下ろし。ジャケット内にCD用挿絵イラストもついてくる! お求めはライアーソフトFC通販か、各店舗、ネット通販などをご利用下さい。

阿野「来たよー」
結奈「お疲れさま阿野。さ、炬燵入って」
比奈「阿野ちゃん、お茶」
阿野「ありがとうー。お、八女茶だね～。あれ？　音七は？」
音七「いるよ～」
阿野「おーコタツ寝は風邪引くよー」
音七「あたしほどのコタツ達人なら、心配むよーう」
結奈「じゃあ、始めようか。祝ドラマＣＤ発売ー」
阿野「わー！　あ～疲れたよー。楽しかったけどさ」
音七「出ずっぱりだったもんな。主人公はどうだったかね？」
阿野「色んなことがあり過ぎで覚えてないよ！　あはは～」
比奈「阿野ちゃんマネージャー良かった。舞香ちゃんも、また来てって」
阿野「そうなの？　嫌われちゃったかなと思ってた」
比奈「舞香ちゃんはツンデレ」
結奈「阿野のお弁当、美味しかったよ」
阿野「いやいや、まだまだですぞ」
結奈「照れないの。阿野は基本出来てるし、焼き加減の判断がいいんだよね。絵を描いたりしてるせいなのかな」
阿野「んー、美味しそうな見た目にこだわってるから自然にそうなるんだと思う。んふふ、また作って来るよー。ビーフストロガノフとか」
比奈「びーふ！」
阿野「比奈ちゃんヨダレ！」
比奈「ん、ん」
結奈「音七さんは？　ドラマＣＤ出てみてどうだった？」
音七「んー？　言うと阿野がわーってなるからな～」
阿野「あーもー、アレは本当に慌てたよ～」
結奈「ねぇ、実際……どうだったの？」
音七「ん～それはねぇ……」
阿野「わーっ！　わー！」
音七「聞いてみてのお楽しみかな～」
結奈「……そうね、宣伝コーナーだしね」
音七「そーいう事。まあ、コタツは人を大胆にさせるって話さね。じゃあ、あたしゃ大胆に寝るよー」
比奈「ＺＺＺ……にく……」
阿野「比奈ちゃん、もう寝てるし」
結奈「じゃあ、締めましょうか」
阿野「はいな！　ドラマＣＤ第一弾「恋人ごっこ」好評発売中。恥ずかしいけどあたしが主人公！　よろしくお願いします！」
結奈「各種店舗様他、ＦＣ通販でも取り扱っています。百合霊さんグッズともども宜しくお願いいたします」
阿野「では、また会う機会まで！」
？？？『ちょっと待った！』
阿野「なに！　どこ？」
？？？『コタツの中から失礼します！　我らドラマＣＤ第二弾四天王！』
阿野「第二弾？　決定したの！？」
？？？『詳細はＷＥＢで順次公開予定。よろしくねー』
阿野「第二弾四天王……いったい誰なんだ……お楽しみにー」
？？？『ロオオオック！』

LETTERS AND POINTS
おたよりコーナー

○特集コーナー「英雄」

『いいですよねー。山の中でも電波が通じやすいし！au？ですよね？』1＋3p(1446・ふ～ちゃん)
まずは、初っ端から飛ばしてくれた英雄に…（晒し者とも言う）。
ライアー社内のau率は高めです。

『某戦姫でも活躍中の土方副長ですが、今こそ元祖女体化土方として熱い一言を！』1＋3p(3640・悠季)
久しぶりだな、餅をやろう…と言うとでも思ったか？悠季には士道不覚悟として切腹を命ずる。【土方】
なお、日野の新選組の展示では某乙女ゲーの隣りに行殺が並んでいたとか…。

『様々な時代の英雄からキャノンボールの優勝者等ありますが、ここはマスクド上海の左文字俊作が変身英雄（ヒーロー）だったなと!OPでのあの動きは忘れられません！新作も変身モノな雰囲気なので、ゲスト参加するのではないかと予想w』
1＋3p(3789・B.B.)
と言うわけで、特集ページにてお目見えです！初見の方への布教…もとい紹介としてアイリーンがマスクドシャンハイの素晴らしさを熱弁中。興味を持たれた方はＤＬ販売などで是非！

『ヒーローもいろいろいますがライア作品で押したいのはヴァルーシアのアスル君ですね。彼のまっすぐさに心打たれました。小さいながら頑張ってる姿も素敵でした。ヴァルーシアの小さくて大きな英雄です』
1＋3p(3732・なぎまり)
まっすぐな彼は、ゲーム制作時にも社内で人気でした。彼は作中の数多の大人達に負けない強い「英雄」だと思います。
「英雄」項返信【しまさら】

○赫炎のインガノック

★イラスト投稿

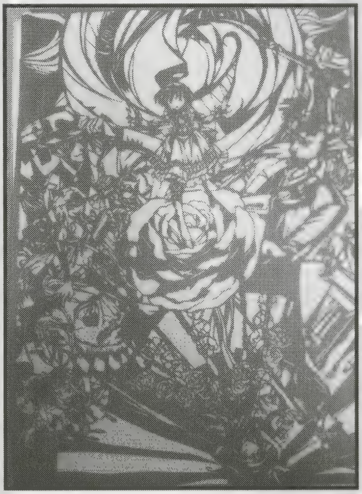


『無冠の英雄』1+5p（3580・ささめけ）
誰にも知られず、手を伸ばした男。素敵なギー先生をありがとうございます。【桜井】

○紫影のソナーニル

『注文していたタペストリーが届いたのでさっそくひとつ組み立てて飾っています！　電気街祭りのタペストリーとゲームの店舗特典のタペストリーで壁がリリィさんだらけになりそうです。ゲームの発売ももうすぐでこれからの展開も楽しみです』1+4p（3580・ささめけ）
タペストリー、ご購入ありがとうございます。お部屋をの華やぎになれば幸いです。コンシューマ版もどうか、お楽しみいただけますようにっ【桜井】

★イラスト投稿



1+5p（3579・珠）
ＰＣ版ソナーニルのポスターイラストを元にした、切り絵ですね！　凄い…！　ありがとうございます。【桜井】

○黄雷のガクトゥーン

『ローゼンクロイツさん普通にいるし！　というかこの人？昔も偉かったのですね…。話し通じるように見えて人には冷淡！』1+4p（3680・竜宮）
前回短編のご感想ですね、ありがとうございます。普通にいる黄金仮面！　黄金王にはいろんなエピソードが設定されています…【桜井】

『自然にあーんするツァン姉弟が可愛かったです。エーリッヒ君は年頃なので恥ずかしそうですね（笑）』
1+4p（**3732・なぎまり**）
前回短編のご感想、ありがとうございます。オディールさんは多分本当

に距離感がふわふわしていて、エーリッヒ君はちょっと押され気味なのかも知れません。でも言い出せない！【桜井】

『テスラさんヒーロー！　バリツ！』
1+4p（**3680・竜宮**）
デスラさん、いつでもヒーローですね。今回は特集にも拾われて……いる割に、やっていることはあまりヒーローでもない！【桜井】

○スチームパンクシリーズ

『スチームパンクシリーズが段々拡散してきましたね！　灰燼のカルシェール等のアナザールート的なシリーズからコンシューマ版展開等、この先どこまで行くのでしょうか！？　そういえばスチパン10周年まであと2年ですね…』1+4p(3789・B.B.)
ゲーム7作＋小説1作、初期三作のフルボイス版、ソナーニルのコンシューマ化、等々。これも、すべて皆さまに応援いただいたお陰です。ありがとうございます！」【桜井】

○星継駅シリーズ

『ふたなりっ娘の恥じらい体操着……イイね！（阿野ちゃんっツラでサムアップ）』1+3p(1834・Johnny-T)
どちらかというと少年属性の強い瑛に女子用体操服なので、羞恥度はさらに増すという……なお画中の体操服は、駅内の学校のものではなく某巨大学園のものです。あの『駅』ですから、そんな品も流れてくるのでしょう。【希】

○希文堂掌編集

『読了しました。改めて通しで読んでみると、レイルソフト全体の主人公が智里なんじゃないかと思えてきました！　今後も彼の活躍に期待してます w』 1+3p（**3789・B.B**）
言われてみるとそんなような気も……いや、作品世界をまたいでいるとはいえ、やっぱりただふらふらしているだけのような気も。まあ智里本人としては、主人公と言われても、「柄じゃねえよ」とか笑っていそうですけどね。【希】

○屋上の百合霊さん

『ドラマCD聴きました、百合霊さんの展開をずーっと待ってましたよ感謝感激です。キャラたちの近況も少し分かって、大満足！　今回は出てなかった他のキャラたちのことも知りたいですので第二弾だけと言わず三弾目四弾目もお願いします。できれば値段が上がってもイラストとかのおまけを一杯付けて豪華だと嬉しいなー。これからも期待してます』1+3p（4025・メンタン）
楽しんで頂けたようでなによりです。メンタンさんをはじめ沢山の感想が来てビックリしました。待たせてごめんなさい。皆様ありがとうございます！　全ての事情が許す限り3弾、4弾とつなげていきたいですね。3弾以降があるならボイスをもう少し多めにしたりキャラを増やしたり、なにか特典的なものをアレコレしたいものです。値段上がっちゃうかもだけど、その分だけ何か足したいです。【とい天津】

○表紙・巻末4コマ

『いつだってライヒさんはひとりで頑張ってるのですね。応援してます』1+3p（3732・なぎまり）
私もライヒさんの恋路を！応援しています！！【Ｌｅｍ】

『セーラー服とヨーヨーでスケ○ン刑事とは、これは懐かしい（盲点でした）。多分テスラも、表紙の欄外で「ふむ。懐かしいものを見たな。それに、ふむ……。あれが『絶対領域』なるものか」と、イメチェンアンヌ嬢の脚をガン観していますよ』1+3p（3947・セトの教授）
黒学ランと黒セーラーは至宝！学生で警察といえばスケバン！？という私の邪なる思い込みそのままでした！ネオンちゃんも！さぁ黒ニーソをさぁ！【Ｌｅｍ】

『表紙を見た瞬間に、あやうく萌え死にするところでした、額の汗ふきつつ。アンヌさんにＪＪ、アナベスたんの三人が大好きなので、がが、眼福ってこういうことですかー！？と、噛みしめました。ああ、アンヌさんスケバン麗しい、ＪＪの顔の角度、顎髭、傷、素敵です、二丁拳銃が格好いいです！そしてセーラー服アナベスたんが可憐…！いやもう、素敵すぎて、感無量でした。巻末の四コマ漫画も、面白かったです！イズミちゃんとアルベール可愛わわわ。最後のコマ、シャイニングリーグですねえ！』1+3p(3084・ニコ)
ひゅーありがとうございます(照れx2)前号の表紙と巻末4コマは実は少しリンクしてました！学園一武闘大会でJJ＆アンヌ組はきっと無双してくれるんじゃないかな！
シャイニングリーグ組の仲間割れにより不戦勝のイズミ＆アルベール組があっさり上位入りしてたらいいな！などと！【Ｌｅｍ】

沢山のご投稿、誠にありがとうございました！　次回の会報テーマは、「マスコットキャラクター」です。（3732・なぎまりさんのご提案。1+3p）可愛い動物系からおぞましい何か系まで、ライアー・レイル作品を彩ってきたキャラクターへの投稿をお待ちしております。

●新作ＰＣゲーム●

星継駅疾走軌
アステライト・しっそうき



レイルソフト・星継駅シリーズの最新作！
今度の舞台は亡霊列車 ――――

ＦＣ通販価格：3,800円(税込)
ＦＣ購入特典：小冊子「星継駅疾走軌・追補編」
書下ろし小説、設定資料など満載！

「紫影のソナーニル」が遂にコンシューマ移植！

紫影のソナーニル Refrain
What a beautiful memories



PSP/Xbox360 各6,400円(税込)
予約特典（なくなり次第終了）：大機関辞典
＋ファンタズマゴリアカード
ＦＣ購入特典：カンバッジ

新作ゲーム&グッズ

『屋上の百合霊さん』ドラマCD "恋人ごっこ"

※単品注文に限りメール便発送可能

阿野ちゃんに（また）モテ期が！
結奈比奈音七と共に過ごす冬物語。

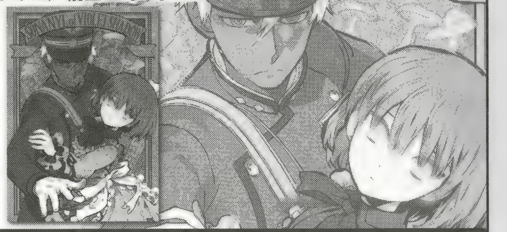
［特典］
おはよう、いただきますから
おやすみまで
４人の特典キャラボイス付き！



¥2,000 円（税込）

「紫影のソナーニル」B２タペストリー

素材／スエード
サイズ／縦型　73×52cm
¥3,000（税込）



『屋上の百合霊さん』トートバッグ

※単品注文に限りメール便発送可能
素材／キャンバス綿 100%
サイズ／本体 W36×H37×D11cm、持ち手 2.5×47cm
内容量／10L



¥1,500（税込）

「黄雷のガクトゥーン」カンバッジ・ノベルアンソロジーコレクション

※個装は　中身の見えない袋に封入してお届けします。
※合計 15 個まではメール便発送可能です。
サイズ／38mm　全９種





全９種セット・¥2,000
個装・¥200／個

－ライアーソフト・レイルソフトＦＣ販売物一覧－

※価格は全て税込です。※同送の「通販要綱」を参考にお申し込みください。

＜ゲーム＞

●コンシューマ

(※1)紫影のソナーニルRefrain／PSP版	￥6,400
(※1)紫影のソナーニルRefrain／Xbox版	￥6,400

●スチームパンクシリーズ

(※2)黄雷のガクトゥーンShining night	￥4,640
(※3)黄雷のガクトゥーン[通常版]	￥5,440
初回特典冊子付	￥5,940
(※4)紫影のソナーニル	￥7,040
(※5)白光のヴァルーシア	￥7,040
(※6)漆黒のシャルノスFullvoiceReBORN	￥3,000
(※6)赫炎のインガノックFullvoiceReBORN	￥3,000
(※6)蒼天のセレナリアFullvoiceReBORN	￥3,000

●レイルソフト

(※7)星継駅疾走軌	￥3,800
(※8)星継駅蒐集箱	￥3,840
(※9)花散峪山人考	￥7,040
(※10)信天号航海録	￥7,040

●ファンディスク

(※11)ハチポチ	￥7,040
(※12)Steampunk Full-voice Fandisk	￥3,000
Round a Go! Go!	￥5,400
ＦＤ3読参子育成企画(FC専売)	￥2,000

●その他

(※13)平グモちゃん-戦国下剋上絵巻-	
[豪華限定版]￥7,840[通常版]￥6,240	
(※14)屋上の百合霊さん[普及版](4/25発売予定)	￥4,600
(※15)オイランルージュ	￥7,040
(※16)どすこい！女雪相撲	￥7,040
(※17)妖刀事件	¥6,800/特典有¥7,400

(※1)予約特典(なくなり次第終了）：「大機関辞典」+ファンタズマゴリアカード／ＦＣ購入特典:カンバッジ
(※2)予約特典ドラマＣＤ「黄雷のガクトゥーン：シャイニングリーグ」／ＦＣ購入特典：アペンドシナリオＣＤ「乙女の戦装束」
(※3)ＦＣ購入特典：アペンドシナリオＣＤ「マスターの１日」
(※4)ＦＣ購入特典：アペンドシナリオＣＤ「幾つかの、冴えたやり方」
(※5)ＦＣ購入特典：アペンドシナリオＣＤ「それは、彼女達の幕間」
(※6)ＦＣ購入特典：スタッフ同人誌「スチパントリビュート」FullvioceReBORNシリーズ3作、同一の特典ですので、2本以上お買い上げの場合も1回のご購入につき1冊付属とさせていただきます。
(※7)ＦＣ購入特典：冊子「星継駅疾走軌・追補編」
(※8)ＦＣ購入特典：冊子「星継駅蒐集箱・追補編」
(※9)購入特典：「花散峪山人考」サウンドトラック（なくなり次第終了）／ＦＣ購入特典：「レイルサウンド・ザ・ベスト」(「霞外籠逗留記」「紅殻町博物誌」「信天翁航海録」のベストサウンドトラック)
(※10)ＦＣ購入特典：冊子「信天翁航海録削除部分流出版」
(※11ＦＣ購入特典：冊子「月刊うそ。特別号」
(※12)ＦＣ購入特典：書き下ろしノベルペーパー
(※13) 豪華限定版特典（ソフトに同梱）：フルカラー設定資料集、「平グモちゃん」サウンドトラック
ＦＣ購入特典：平グモちゃんペーパークラフトＣＤ
(※14)購入特典：挿入歌マキシＣＤ「ＡＡ愛！」／ＦＣ購入特典：アペンドシナリオＣＤ「新しくこの学園に来たあなた達に」
(※15)予約特典：「オイランルージュ福読本」（なくなり次第終了）／ＦＣ購入特典：アペンドシナリオＣＤ「ある大紋日の高瀬屋」
(※16)ＦＣ購入特典：アペンドシナリオＣＤ「どすこい！女雪相撲～胸がドキドキ宇宙場所体験～」
(※17)特典：書き下ろしNETRIDEカード（ＤＬ販売用金券）
(※18)予約購入特典：マキシシングル「真白慕情」

＜グッズ＞

●音楽ＣＤ

・(※18)ボーカルＣＤ「Ｐｒｏｓｉｔ！」	￥3,000
・ボーカルＣＤ「Ｓａｌｕｔｅ！」	￥3,000
・サフィズムの舷窓アレンジＣＤ「AIGRETTE」	￥2,000
・Liar-softサウンドトラック「ぶるま」	￥2,500
・Liar-softサウンドトラック「わらび」	￥2,500
・Liar-softサウンドトラック「しっぽ」	￥2,500
・Liar-softサントラ3セット（ケース付）	￥6,000

●スチームパンクシリーズグッズ

・紫影のソナーニルＢ２タペストリー	￥3,000
(※)黄雷のガクトゥーンカンバッジ・全21種	1個￥200
(※)黄雷のガクトゥーンカンバッジ・ノベルアンソロジーコレクション	
全９種セット￥2,000,個装￥200/個	
(メ)黄雷のガクトゥーン　ノベルアンソロジー	￥1,500
(メ)黄雷のガクトゥーン　ドラマＣＤ「間違いの悲劇」	￥2,000
(メ)黄雷のガクトゥーン　クリアファイル	￥500
・黄雷のガクトゥーン　ひざ掛け	￥3,000
(別)黄雷のガクトゥーン　タペストリー	￥3,500
(メ)スチームパンク５周年記念冊子	￥1,000
(メ)英訳書籍「スチームパンクラフガイド」	￥1,000
(メ)ドラマＣＤ「スチームパンククインテット」	￥2,000
(メ)スチームパンク・フルボイスファンディスク	￥3,000
・蒼天のセレナリアファンブック	￥1,800

●レイル文庫

(メ)星継駅疾走軌外伝	￥700
(メ)星継駅年代史外伝	￥500
(メ)星継駅擾乱譚外伝	￥500

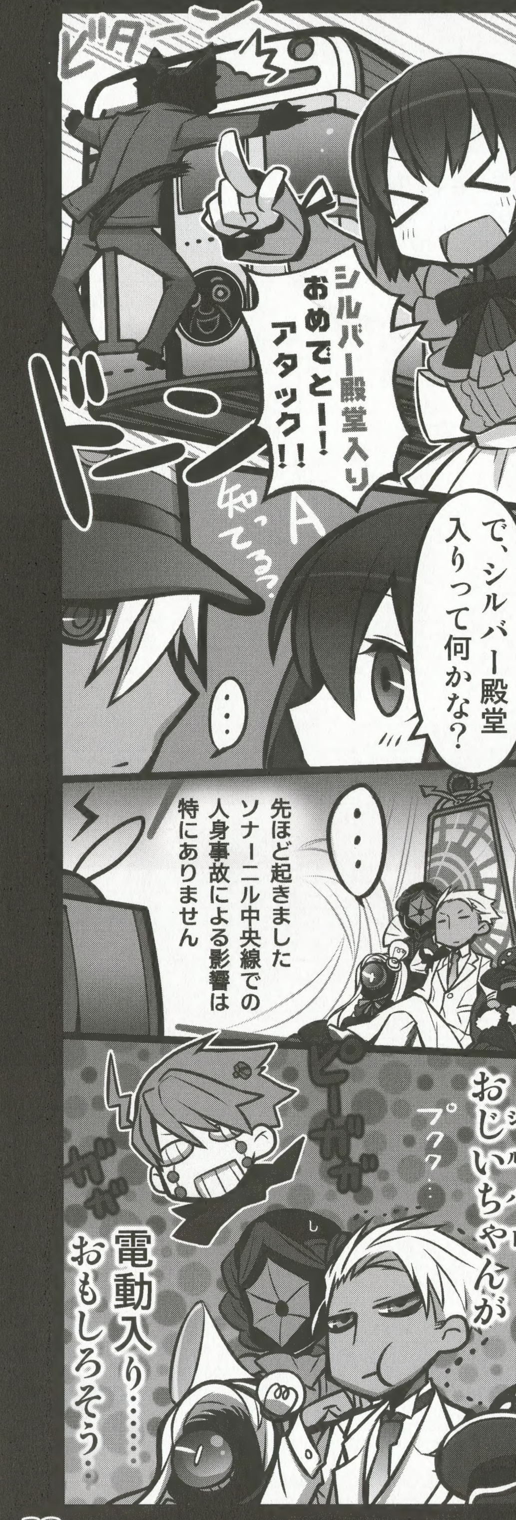
●その他グッズ

(メ)屋上の百合霊さんドラマＣＤ「恋人ごっこ」	￥2,000
(メ)屋上の百合霊さんトートバッグ	￥1,500
(メ)屋上の百合霊さんグッズセットＡ	
（クリアファイル・名簿・開運百合開きシール）	￥1,000
(メ)屋上の百合霊さんグッズセットＢ	
（クリアファイル・名簿）	￥500
(メ)ＩＣカードステッカー	￥1,000
(メ)ライブ記念マイクロファイバータオル	￥500
(メ)Liar&raiL　PosterArtCollection	￥1,500
(メ)ＢＧＭフェスタ冊子　「隻眼のリタツキン」	￥1,000
・ＢＧＭフェスタＣＤ　「隻眼のティンダロス」	￥2,000
(メ)『月刊うそ。』バックナンバー	
(11～13,16～28,30,31,33～35,37～45号)	各￥400

(メ) 単品注文の場合、メール便(￥300)での発送が可能な商品です。
(別) 他のグッズとは別送になり、別途送料がかかります。
(※) カンバッジは不透明な袋に個包装し、柄がわからない状態でお届けします。15個まではメール便発送可能です。

※ライアーソフト第25弾『水スペ川野口ノブ探検隊』までの作品（『妖刀事件』を除く）、及びレイルソフト第２弾『紅殻町博物誌』までの作品はロットアップしました。現在、追加生産・販売は行っておりません。一部タイトルは弊社ＨＰよりＤＬ販売しております。

ここだけの話
「どうしてもこのソフトが欲しい！」場合は、一応お問い合わせください(駄目元で)。
ＦＣ会員様にだけひっそりと利く融通が、あったりなかったり……。



投稿者名／悠季さんのトピックスネタ《紫影のソナーニル さらにXBOX USOにも移植決定！！》採用させていただきました！

ライアースタッフQ＆A

第8回　「事務員」ジムニー

□通販・事務・雑用係と、幅が多そうな仕事ですが、具体的に毎日何をしているのでしょうか?(ふ〜ちゃん様)

■消耗品の補充、商品やイベント関連の書類手続き、などの他、HP作成のお手伝いもやっています。字ばっかりで色気のないページを作ってるのは大抵、私の担当です。

□どういった経緯でLiarでお仕事をすることになったのでしょうか?(トリスメギストス様)

■左目に封印された凍瘴鬼（フロスティバグズ）が暴走（スタンビート）しそうになった時にこちらの社長様に助けていただいたのが切掛けだったわけではなく、知人の紹介です。

□オススメの一本を教えて下さい。(さざめけ様)

■信天翁航海録を推しておきます！

□通販でいつもお世話になっていますが、よくあるミスってありますか？　自分がやらかしてないか不安です。(悠季様)

■大丈夫ですよ！　皆さん非常に訓練を積んだ精鋭ばかりです。が、引っ越し連絡がないのはちょっと困ります。注文の時についでに引っ越し報告する時は、連絡欄などに「引っ越ししたよ」と教えて下さいね。

　あ、何の入金か判らないのは割と困ります。

□「あずきのチカラ」買っちゃいました☆　やだこれあったかい…（依存の悪循環）(もっち様)

■ここがもうこんなにほぐれてるじゃないか…（ほかほか）

□PNの由来は『事務のにーちゃん』からきているのでしょうか?(セトの教授様)

■思わず座布団を差し上げたくなってしまいましたが、文房具会社ZEBRAの、今は亡きブランド「ジムニー」シリーズからいただきました。車の方ではありません。

□お気に入りの事務用品はありますか?(棘姫様)

■そんなにこだわりがある方ではないのですが、今流行のするする書けるタイプのボールペンは余り好きではなくて、昔ながらの油性タイプのボールペンを愛用しています。特に書きやすいと思っているのはZEBRAのUK-0.7芯（何故かやや入手困難）で、これはK-0.7適合のホルダーでも普通に使えるのですが少し短いSK-0.7芯適合のホルダーでも端を切り落として多色ペンに（以下、長くなったので省略）

次回は自称ハイパーメディアクリエイターの犬太郎さんです。

<編集後記>今回は何とかスタッフQ＆Aが全部入りましたよ！　ただ最後の怒涛の語りのためにこのスペースが小さいのなんの……おお、もう埋まりそう！（グランテール井上）

《会員専用ホームページ》

http://www.liar.co.jp/cgi-bin/gate/gate.cgi

※在庫切れ会報のバックナンバーPDF、会報宛て投稿フォーム、壁紙やコミック等ＦＣ限定のコンテンツ多数！

※以下のＩＤとパスワードでお入りください。

ID:member　　Pass:uso800

《お便りの宛先》

〒160-0022　東京都新宿区新宿 1-25-3
エクセルコート新宿 301
ＦＡＸ.03-3355-6736　e-mail fc@liar.co.jp

※会員ページの投稿フォームもご利用ください

ライアーソフトファンクラブ会報
『月刊うそ。』第46号
年4回季刊発行　2014年3月25日発行
発行：（株）ビジネスパートナー　ライアーソフト
編集：『月刊うそ。』編集チーム
表紙レイアウト：しまさらゆめき
表紙・巻末漫画：Ｌｅｍ
発行：あかつき印刷

twitter アカウント /@liar_railsoft
スタッフブログ /http://blog.livedoor.jp/liar__rail/

ライアーソフトファンクラブ会報『月刊うそ。』





二〇一四年三月二十五日発行 年四回季刊発行
（株）ビジネスパートナー ライアーソフト